

第3回播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事概要

日 時	平成 27 年 10 月 23 日（金） 10：00～12：00
場 所	播磨町役場第 1 庁舎 3 階 BC 会議室
出席者	<p>【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議】</p> <p>松井 昭雄（商工会） 大亀 亨（商店主） 真木 高司（東播磨県民局 局長） 横谷 昌浩（代理 加古川公共職業安定所 職業相談部門 統括職業指導官） 南島 和久（神戸学院大学 法学部准教授） 太畑 延之（代理 みなと銀行 地域戦略部 調査役） 門野 隆弘（神戸新聞社 東播支社 支社長） 諸鹿 良治（住民代表）</p> <p>【事務局】</p> <p>清水 ひろ子（町長） 三村 隆史（副町長） 横田 一（教育長） 角田 英明（理事） 森本 貴浩（理事） 高倉 正剛（理事） 平郡 利一（理事） 岡本 浩一（企画グループ 統括） 堀江 直美（企画グループ） 濱田 祐輔（企画グループ）</p>
欠席者	<p>田中 靖宏（新島連絡協議会 会長） 大塚 毅彦（明石工業高等専門学校 建築学科教授） 北 幸治（労働者福祉協議会 会長） 荒谷 ふみ子（住民代表）</p>

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 協議事項

(1) 播磨町人口ビジョンについて
 事務局) 冊子については、最終版ではありますが、文言等の修正等もあるということと、

骨子の部分を説明していくということをご了承いただきたい。

(事務局 資料(人口ビジョン)説明)

会 長) 播磨町の人口ビジョンがこれによりある程度固まっていると思う。これについて、ご意見をいただきたいと思うが、吸い上げられない意見もあるかと思う。その場合は、議事録に残し、今後の行政運営でご活用いただくという形でお願いしたいと思う。補足としては、人口3万人が最終的な目標になり、そのためにどうするかという話である。自然増の話か、社会増の話かを頭の中で切り分けていただきたい。社会増では、播磨町の場合には町外から勤務される方が多いので、定住化をどうするかが大きな課題として前回も議論されていた。自然増と社会増をどうするか、ふたつを組み合わせると人口をどうするか、このあたりの話を議論いただきたい。

委 員) 16 ページの下のグラフについて、加古川市との間の転出が比較的多く、流入が少ないという傾向である。近隣市町も同じように加古川市との間に出入りがあり、出ていく方が多い。その背景として、今回のアンケート調査から、理由を分析しているのか。それがなければ、町としてその理由をどのように受け止めているのか。単純に社会増のところで加古川市への転出を抑制するだけでも人口増につながるのではないか。

会 長) 明石市と加古川市に強い影響を受けていると思うが。

事務局) 加古川市との交流が多いという話であるが、医療の関係、商業の関係というところでも加古川とは強い影響を受けるところではあると思う。播磨町の生活エリアが加古川にあるということも考えられる。

町 長) 加古川市の平岡町辺りと、播磨町とは差がない。経済圏や気候等の要素は同じであるが、子育て施策は播磨町が優っているのではないか。唯一引っかかるのは「加古郡」というところにあるのではないかと考えている。若い人からは、市と郡では外に出たとき大きな違いがあると聞いている。なんでもないようなところで影響があると感じている。色々な条件を取り上げても、あまり違いはない。むしろ地域によっては播磨町の方が住みやすいと考えられる。

委 員) アンケート調査については、エリアごとの分析は行っているのか。

会 長) そこは、掘り下げて行っていないという認識でよいと思う。今後の課題と受け取っていただきたい。町長の発言に付け加えると、イメージだけでなく、利便性の高さもそれを打ち破る鍵であると思う。

副町長) 17 ページのところで、若年層の転入転出については、加古川市から播磨町に入ってくる方が多い。どちらかという、近隣市町との人の取り合いよりも、遠くから転入していただきたいという思いがある。商業施設も出来上がり、播磨町の生活の利便性はあがってくると考えている。

町 長) 例えば、車のナンバーも神戸市にしたいとこだわる人がいる等、表面的には出てこない部分でのこだわりも影響しているのかと思う。

委 員) 24、25 ページの転入時に本町を選んだきっかけについて、交通の利便性等があがっており、住み続けていくには医療機関の増加や治安が良いことがあがっている。播磨町の治安が悪いとは思わないが、今後は、治安をもっとよくしていくという考えかそれとも現状維持という考えか。

町 長) 小さな事案は発生しており、交通量の多いところでは交通事故も起きているが、大きな事件・事故はなく、治安が悪いとまでは思わない。小さな町であり、地域の顔が見えることで、安心感があり、そういうところの評価をいただいていると考えている。

会 長) 人口ビジョンを踏み台にして、次の総合戦略があるので、次に進ませていただき、思い出すことがあれば、お願いしたいと思う。

(2) 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

(事務局 資料 (総合戦略) 説明)

会 長) ご意見をいただきたいと思うが、補足をする。目標が全部で4つあると思う。まち・ひと・しごとの3つの中に、ひとが自然増、社会増にわかれている。

委 員) 町の援助を受けて、異業種交流を行っているところである。特産品の開発に関連するかもしれないが、播磨の食という商標を申請している。また、他から人を呼び込むには、家の話があると思う。高品質、低価格が理想だが、低価格は難しいと思う。子育ての面で非常に環境として良い町なので、空き家の対策と合わせてやると両得かと考える。あと、観光入込客数について、エバーホテルが非常に頑張っているが、様々な形の民宿といったものがあるのもいいと思う。若い方には、自分が住んで、そういった民宿を経営したい人がいるかもしれない。そういう人が入ってきてくれると頼もしい。播磨町は魚や海苔もあるので、朝市に結びつけることを将来の視野においてもいいのではないかと。観光資源として。みなさんが思っているような大掛かりな観光を進めるのではなくて、気楽な、年配の人が散策できるような、播磨でとれたものを買物できるような仕組みなどで進めていくのが良いと思う。和歌山では100の漁港があり、それを行政がPRして、朝市に観光客を呼び込んでいる。播磨町独自でも、レベルは違ってもそういう手法、コンパクトで独自の仕組みを検討いただきたい。

町 長) ある会議で空き家対策について質疑を受けた。多子世帯を呼び込むには、広い空間のある住居が必要であると考え。空き家については、斡旋も含めて考えていきたいと思う。特産品についても、現在商工会に頑張ってもらっている。観光

については、大中遺跡がほとんどであるが、その観光客が海の方まで来てもらえたら思っている。

委員) アンケート調査について、気になるのが商業関係である。60 ページなどいろいろなところには出てくるが、やや不満という回答が目立つところがあり、そういうあたりを強化すれば良い町になると思う。アンケートみると、播磨町には住みたいと思っている人が多いと思うが、デメリットを考えた場合、商業施設の不足、バスの不便等あると思う。そこを強化することにより、良い町になると思う。もう一点は、戻ってきたい人は多いように思う。住宅の問題について、空き家も含め整理してあげるといいような気がする。気になるのは、親元に帰ってきているのに、経済的支援がほしいという項目に多くの記入があるように思う。具体的に何がいいのかを検討していただけたらと思う。

委員) 交通の便が良いというのが、逆にネックになっているのではということも考えられる。播磨町に良い家がなければ二見でもいいかな、仕事は播磨町でもすぐ通えると思われる。住むところがあることが一番重要ではないか。働くのも住むのも播磨町というのが一番理想的である。行政で住宅を整備することには限界がある。民間の力を活用してはどうか。双方に魅力があるまちづくり、播磨町内での場所の確保、空き家の活用もひとつだが、民間の力を活用しながらやっていくのもひとつの手かと思う。あと、コミュニティバスは原則町内の走行とのことだが、行政区域を超えて運行できる可能性があれば。明石市や加古川市など、大きな商業施設のあるところにアクセスすることも考えられる。播磨町の方が現在どういった商業施設を利用しているのかを把握し、費用などの課題はあるが、行政区域を越えて播磨町からすぐ行けるような交通を検討する価値はあるのではないかとと思う。

町長) 商工関係について。商店主が高齢化し、跡継ぎがないということで、個人商店は先が見込みにくいと聞いている。新たな事業者の育成を進めているので、今後の活躍を期待したい。来年3月に土山駅の南側に商業施設がオープンする。複合施設なので、町の商業の状況も変わることを期待している。そこで、南の方の住民も利用しやすくするためにコミュニティバスの運行の準備を進めている。周辺市町とも話はしており、加古川市の病院の位置が変わるということで、先日も市長と、播磨町が走らせるコミュニティバスとかこバスがうまく組み合わせられればとの話をした。また、以前に明石市のたこバスや加古川市のかこバスが播磨町に入ってこられないか試算したが、播磨町内に走っていないのに、一部が入っても意味がないということと、大きな投資が必要ということで断念した。そのかわりに、土山駅に加古川市から入ってきている路線バスは路線を延長していただいている。県にお願いしたいが、将来的には周辺のコミュニティバスが2市2町、3市2町うまくドッキングできるような方向が定まればと考えている。また、帰

ってきたい子どもたちをどう受け入れるかについて、今の傾向は、親元に二世帯住宅で住む方が少ない。新たにローンを組み、家を建てるケースが多いので、ローンや育児の費用を考えると、さらにいろいろな経済的支援を望まれているのではないかと考えている。住宅整備に民間の力をとることだが、播磨町の場合、宅地開発は民間でないとできないと思っている。行政が道路等、インフラ整備をすることにより、そこに新たな民間の開発をしていただけないかと考えている。今年3月、浜幹線道路が全線開通し、大きな影響があった。周辺地域では子どもも、家もかなり増えている。今後も行政ができることと、民間にお願いしないといけないことがあるということを見極めながら、事業を進めていきたい。また播磨町は商店街があまりなく、土山駅北側の通りも寂しい。大手のスーパーはこの2、3年にいくつか開店していただいて、買い物難民は多くはないと考えているが、交通手段がない方がいる。現在予定しているのは、集落に入り込んだコミュニティバスを活用し、いろいろな商業施設も利用していただきたい。それから、土山駅の施設を起爆剤として、商店街や商店主の方にもまた頑張ってもらいたいと思う。まずは来年4月の土山駅南側の状況を見て考えていきたい。

委員) 播磨町は非常に良いところだと思うが、加古川や明石に仕事へ行くと遠くからご苦労様ですと言われてしまう。中の人には、交通の便もよく住みやすい町と思っているが、周りからの認知が低いと思う。選ばれてからは非常に住みやすいが、選ばれるようなPR、認知されるようなPRをして、選ばれる町としての行動をお願いしたいと思います。

町長) 知らなければ発展はないと思う。冊子のほかにも、ポスターを作成しようと考えている。駅等に貼り、播磨町のいいところを外へアピールしていきたいと考えている。

委員) 媒体というものを使うときに、ジョセフ・ヒコの使い方をもう少しうまくできないかと思う。古代というのは知れ渡っていると思うが、ジョセフ・ヒコはあまり知られていないと思う。うまくその媒体にも含めたらと思います。

町長) 現在、アニメを作成中で、公共施設や学校、商業施設等での放映を考えている。

委員) 目標値を設定する際、高い数値を設定することも大切だが、現実性ももっと重要かと考える。対外的なPRを行うのであれば、具体的にどのような施策をやっていくのかということの説明できるようにしていただきたいと思う。

会長) 高めの目標を設定されているとは思いますが、5年後の時は、何らかの形で総括をしていただきたいと思う。

委員) 23ページの、映像再生数について、KPIを設定されているが、映像だけでなく、ホームページのデザイン等の変更も検討していただきと思う。

事務局) ホームページに関しては、今年度改正予定にしている。

委員) 先月、役場で育児をしている母親の就労支援ということで話をさせていただ

た。人数は少なかったが、そう考えておられるお母さん方はいらっしゃる。どこに預けていくなど様々なご意見があった。行政が、お手伝いできていたらと考えている。平成6年ごろに電車、バスでくる予定があったが、今は、かこバスに乗ればすぐに来られるようになり、すごく便利になったなど思った。

会 長) 女性の有業率が低いことについて、なぜなのかということも議論したところである。保育サービスの基本的な改革が必要なのではないかとも思う。

町 長) 播磨町では学童保育を公設化しており、今年からは普段学童を利用していない子どもについても、夏季休業中等で希望者を預かるようにしている。パートなどのお仕事をされている方が、夏休みなどは子どもが朝からいるので、みて欲しいという意見があったので、学童保育を拡大した。子育て期間中は女性の就業率が低いということだが、私は子どもを育てた経験や女性の立場からすると、低くてもいいと考えている。女性の人生において、子育てに専念する時間は子どもにとっても、母親にとっても必要である。問題は、その後に復帰出来る体制、社会づくりをしていきたい。例えば看護師や保育士の資格を持っている人でも兵庫県下で70~80%だったか、かなりの人が資格を持っていながらそれを使っていないことである。他の資格を持っている方もそうだと思う。子育て期間中は子育てに専念して、その後に持っているキャリアや資格を活かせるような就業状況を社会で整備されていることが重要であると考えている。就業率が少し低くなっていても問題視する必要はないのかなと個人的には思っている。その後の人生が長いので、それまで積み上げてきたものを社会に還元できるような就業ができる世の中であればいいなと思っている。

(3) その他

町 長) 色々と熱心にご意見いただきありがとうございます。ただ残念なところは、国勢調査が先日終わり、これから結果が出てくるが、平成22年の、5年前の結果で計画を立てないといけないことがつらい。今の時代は、5年間は一昔という認識である。参考にした数値がほとんど変わらない市町もあれば、播磨町はこの5年間で環境、周辺状況も変わってきている部分が多い。それも踏まえて、5年後に反省、検証との話もあったが、そういった出発点において計画をたてなければならなかったということも認知いただきたい。

4. 閉会